

# 市仏連会報

発行所  
 横浜市中区大平町96  
 光明山西有寺内  
 横浜市仏教連合会  
 電話 045(661)0166

## 第十六回総会

### 於て西有寺

平成元年度市仏連総会は、五月八日午後二時から中区西有寺において開催された。市仏からのお願いとして各区五名以上の出席を求めていた。その期待に応じて、神奈川区、保土ヶ谷・旭区の仏教会が多数参加された。約三十五名の出席者があった。

拝旅行の実施の件では、来月の六月七日に群馬県内の茂林寺、栃木県内の満願寺等への参拝旅行を企画し、各寺院方に参加者募集にご協力をいただいている。まだ間に合うので多数の参加者を得てくださるよう重ねてお願いする。積尊

総会は新副会長の玄野孝善師の開会の言葉で定例に開始し、議長に前神奈川区仏教会会長の黒多良弘師を選出した。会長の柳下隆侃師の来場が遅れたので、会長挨拶は後刻になった。議案一の昭和六十三年度事業報告について玄野前専務理事が説明した。二の昭和六十三年度決算報告について内野會計より説明があり、三の会計監査報告について野澤師が間違いがなかったので署名押印を決算書にしたと説明された。四で以上三議案を拍手で承認した。五の平成元年度事業計画は玄野師が読み上げて説明。第十六回涅槃会は泉区仏教会が当番で平成二年二月頃に開催予定である。税務問題の研究、消費税問題については本日総会後に講師を招き勉強会の予定。墓地問題の研究、特に寺院墓地の拡張と認可問題については市役所行政サイドの意識を調査し会報誌上に報告ができたら幸いであると思っ



ている。確約はむずかしい。仏跡参奉議會主催の秋の旅行は十一月七日から二泊三日で沖繩慰霊供養の旅を予定されている。次に役員改選と市仏連創立四十周年記念行事だが、六案以後の審議に関連するので、そこで説明したい。六案の平成元年度予算案を内野會計から提案発表があり、活発な意見がかわされた。市仏四十周年記念特別事業費を別途会計として、今回予算計上をせず、積尊奉議会十周年記念行事執行のため三十万円を計上し予算措置をすることは、主

客転倒でないか。内野師は実行委員会を設置してそこで具体化するというのが市仏三役の基本方針なので、この平成元年度予算に計上しないし、また、でき得ない。と回答をした。七で五と六の案件の承任を求めて、原案通り承任された。八の役員改選の件については選考委員会委員長の中田寺住職香川隆善師が説明をした。市仏連役員任期満了につき、選考委員会を充足し、去る三月二日に理事會に、会長に福聚寺住職森山正城師、副会長に長昌寺玄野孝善師と海照寺滝川覚通師を選出したと中間報告を申し上げた。ところが、会長就任内定の森山師より四月三十日、病のため入院加療中で長びくので後任人事を再考してほしいとの連絡を受け、現三役と緊急協議をした。柳下前会長を説得し、一年間会長職に就任して、森山師を参与として、病氣回復後の復職を期待する。五月三日に選考委員会へ報告し了承を得た。本日の総會に新人事を提案する。議長が当案件の是非を求め、全員拍手で提案通り承認した。会長柳下隆侃師首寺住職。副会長玄野孝善長昌寺住職(会報編集指導担当)。副会長滝川覚道海照寺住職。専務理事川上敬吾松蔭寺住職。會計内野公雄弘聖寺住職。會計監査野沢隆幸正泉寺住職。川上師が専務理事に就任したので欠員一名の補充選任は役員會に一任する。次に市仏連創立四十周年と市仏尊奉議會創立十周年記念行事の合同執行を鶴見区総持寺の三松閣を会場に拝借し

平成二年に予定する。特別運営委員会を設置し、そこで具体案を作成する必要がある。三役で検討する。総持寺の三松閣は今、建築中である。使用可能日は平成二年の四月十六日以降であるとの意見を述べた人がいた。また、玄野師より会報編集は従来、専務理事が担当した。一人で数役もこなすことは困難である。体験上、会報編集を独立部局とするほうが良いと思う。その方向づけのため、備前恭忍西福寺住職ともう一人位を加え、私が指導し、取り会えず三人でスタートし、編集組織の拡充に取り組みたい。各位の御理解をお願いする。通達報告として、平成元年七月一日に総務庁よりサービスマ統計調査のため、宗教法人にもアンケートを依頼する文書が会宛に届いている。実施されたらご協力をお願いいたします。

新諸役全員起立し、顔ぶれの紹介がされた。参加者全員があた、かい拍手で各役就任を祝った。

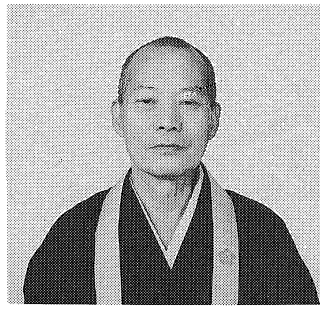
以上黒多名議長のもとに当局提出の諸議案が慎重審議され無事総會を終了する事ができた。最後に泉仏福永隆師が来賓挨拶で、泉の良きパートナーとして市仏連に期待する。益々の発展と協力を希望するとのべられた。

閉会の言葉を玄野副会長が述べ第十六回総会を終了した。

その後「宗教法人の消費税」と題して税理士「丹羽文雄」氏を講師に研修會を開催、スライドと文書で解りやすく説明があった。

平成元年も愈々七月の盆月を迎えましたが、諸大徳の皆様にはますます御健勝にて、教化に、法務に盡力ただけます事を御祈念申し上げます。

横浜市仏教連合会も創立以来約七十年余と云われておりますが、記録が手許にありませんので探しております。ご存知の方はお知らせください。ご存知の方はお知らせしてください。御願ひ致します。それにしても戦後再編成をして現在の規約を作りましてより丁度四十年、市仏の教化団体として発



足致しました横浜市釈尊奉讃会創立十周年の記念すべき年を迎え、新しい会長のもとに一層の充実と発展を願って、諸般の準備を致しております。総会の直前に予期せぬアクシデントがあり、暫く会長を続けることになりました。皆様の御努力、御支援をお願い申し上げます。

去る六月七日の市仏と奉讃会による恒例の仏跡参拝旅行には、諸大徳の御協力により、観光バスを連ねて茂林寺と出流山満願寺の

参拝、ご住職の法話等、心の洗われる市仏ならではの楽しい行事が盛會裡に終了出来ました事を感謝申し上げます。十一月に計画されております横浜釈尊奉讃会十周年記念としての沖繩巡拝慰霊の旅にも是非御協力を戴きたいと存じます。

去る六月十二、十三、十四日と二泊三日にて神奈川県宗教連盟のサイパン島、テニアン島巡拝慰霊法要に十七名で行ってまいりました。仏教会側より小崎竜雄前宗連理事長、福永隆昭県仏会長、其の他の方々と共に行ってまいりました。私は前にも何回か行った事が

### 会 長 挨 拶

市仏連会長 柳下隆侃

ありますが、終戦処理はまだ終わってないという事を痛感致しました。テニアン島の港のはじは日本の輸送船が撃沈されて頭を出したままの姿、其の他の状態を見ると胸が痛みました。日本人の新島、萬才岬の観光には大勢ゆかれませんが、戦争犠牲になられた方々の墓地、基地等には殆ど参拝されずホテルのプールや、海岸にて泳いだり、甲羅干しをしていられます。特にテニアン島では昭和十六年一月から横浜刑務所収容者で構成された図南報国隊員約千名が奇烈なる労働の末軍用飛行場を設営しましたが、こぼれやと出来上

り、日本軍が使用しない中に昭和十九年七月、アメリカ軍がこの島を占領すると同時にB29の発進基地となり皮肉にも日本爆撃に使われ、特に第一、第二日本原爆機発進の地と標識が立てられてあります。第一原爆発進地の方は広島へ、第二原爆発進地の方は長崎へ、原爆を投下したB29の発進地でありました。私達は此の飛行場の滑走路にて香を焚き、酒、供物等を供え、法衣を着けて読経し、全員焼香供養を致しました。続いてキリスト教の神父、牧師等が讃美歌と聖書朗読をしようとしてましたら一台の軍用自動車が出来て、今日

はアメリカ空軍の演習日で今此処に飛行機が着陸するので危険だから至急避難する様にと云われました。見ると点の様に遥に見えた黒い飛行機が、みるみるうちに大きくなり落下傘が次々に花を咲かせて降下をはじめました。私達は急いで車に乗り、アメリカ軍の自動車について避難しますとすぐそのあとに飛行機が続いて着陸して来ます。茂みの中には何処も迷彩服のアメリカ兵と車が一杯になってます。聞けば演習中は立ち入り禁止なのでさうですが、法衣を着ているのでさうい話はなく、旧日本海軍航空隊司令部の爆撃されたままの建物を見学し、他の法要

団が供養して撤かれた散華が沢山あり、私達も心経法楽を捧げてまいりました。此の他にまだ沢山書きたい事がありますが略しましてたゞ末に遺骨も収集されていない方々のこと、島内で家を建てるのに掘れば直ぐ遺骨が出て来ると云われる状態を見て、国内にいる私達、感謝も忘れて飽食に、使い捨てに、勝手な言動を繰り返してよいものでせうか。この十一月の沖繩戦跡巡拝慰霊法要の旅は私達の日常生活の反省と犠牲になられた方々への感謝を込めた意義の深い慰霊巡拝の旅に致したいと存じます。尚、市仏連、市釈尊奉讃会の祝典は小委員会を設置して検討の上、実行に移しますので御諒承いたゞきたく御願ひ申上げ、ご挨拶と致します。

### 第十四回涅槃会開修行

平成元年二月七日

於て西有寺

寒い時節であるが本日は特に温かい日ざしがさし込んで、会場の西有寺は春を思わせるようであった。午後一時に受け付け開始、二時より法要、法要は例年の如く市仏連会長の導師で厳修された。特に曹洞宗青年同志会の若手僧侶が法要に随喜の榮をたまわり、大変おごそかに修行された。仏前には、美しい生花と涅槃ダンゴが供えられ、いっそう釈尊の徳をたたえているのようが見えた。この準備には市仏連役員をはじめとし、市釈尊奉讃会役員と中区

仏教会の諸老師がたの、ご協力をたまわり、それに約百名程の善男善女の参詣者が心を一つにして、涅槃会に厚い志をそそいで下さった、たまものと思う。法要終了後約十分程休息をとり記念講演に入った。講演は寒の中のため信徒会館に場所を移し、曹洞宗前関東管区長、広見寺住職町田大謙老師を崎玉県秩父市よりお願ひし約一時間程度に渡って熱のこもる力強い講演をいただいた。演題は「山寺のある記」と題して、ご自分の修行中の苦しみ、特に永平寺の修行中の苦しみ、具体的にお話し下された。そして命の尊さという点に気づいた。なれば、自分が住職になった時には、その点について檀信徒を教化し、人間は自分で生きていくのではなく、み

# 第六回春の仏跡旅行参拝 茂林寺、満願寺をたずねて

関東地方に梅雨入り宣言が出たのが六月五日。平成元年六月七日(水)の横浜市仏連主催で釈尊奉讃会共讃の仏跡バス旅行日の天候が心配されたが、当日は終日、好天の旅行日和りに恵まれた。横浜各区の集合場所を朝六時半〜七時十五分頃に出発。首都高速をぬけ、東北自動車道路に入り、埼玉県蓮田サービスエリアで全車合流し、午前十時二十三分に出発。群馬県館林市の茂林寺へ向った。十一時に茂林寺到着。五百年前に建てられたカヤぶき屋根の本堂に三五〇名ちかひ人数が集い、満席となる。ただちに本尊法楽を厳修。横浜市仏連の副会長で、旭区長昌寺住職の玄野孝善師の司会進行で礼拝、般若心経、礼拝と全員で勤行した。もう一名の副会長の磯子区海照寺住職の滝川覚道師が挨拶をされた。

「私は副会長の滝川です。今、訪れています茂林寺は分福茶釜の民話で有名ですね。ユーモラスなタヌキ和尚の心あたたまる話の寺伝は仏教の慈悲、やさしさを示しています。午后に参拝の満願寺は修験道。出羽三山、日光二荒山等の山伏の修行道場の寺です。きびしさを感得すると思います。仏教の智慧をあらわします。」

次に釈尊奉讃会の宇野忠夫会長が挨拶。「人生を有意義にすごす組織が釈尊奉讃会です。誇りに思っています。」

次に茂林寺住職古川正山師のお話を拝聴した。師の風体は境内の等身大の狸の焼き物像にそっくりで親しみがもてた。「横浜市仏教会、釈尊奉讃会の団参の方々、ようこそ茂林寺へおまいりくださいました。」

先程、当山の案内パンフレットを配布しました。それは今出さなくともよいのです。帰宅されてから、眼鏡を二つでも三つでも重ねて、じっくりと当山の葉をご覧ください。本尊さんは釈迦牟尼如来で狸ではありません。(大笑い) 五三〇年位前に開山され、失火は一度もありません。応仁二年(一四六八)の建物です。宗旨は曹洞宗です。

版木に手足が出た茶釜が彫られ、寺宝譚として印刷されたのは幕末の頃です。

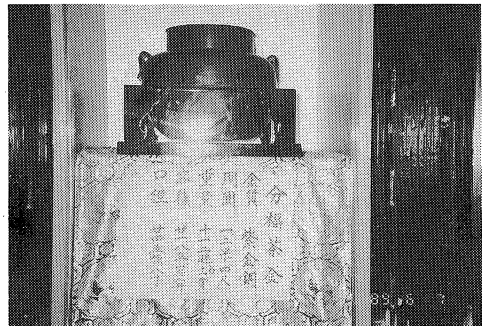
分福とは衆に福を分つということと煮えたぎる音、ブンプクの擬音からの両方からの由来によります。汲んでも尽きない湯の真相は天亀、湯年間頃、千利休などが現われ、湯の道が大流行をしました。お茶の作法に茶釜の湯を極度に煮えたてないために指し水をする。また、使用して減った茶釜に常に水を注ぎ足す。などがあります。そういう茶礼と禅宗の規矩が一致して茶道が成立したといわれます。その心得のある和尚が茂林寺にも在住され、代々、禅修行

に取り入れられたものと思います。伝記の底流には歴史の事実があります。このような学者風の説をいくらいいますも、寺の繁昌にはつながりませんが、福を分かちあうことを心がけていただくことを勧め、皆様がお心豊かになられる。お話を申しした甲斐がございます。」

堂内を拝観した。

「円通」「喫茶去」などの匾額は禅寺らしい落ちつきをかもし

茂林寺の分福茶釜



です。「分福茶釜」を拝見した。堂の隅に「単」が四〇個ばかり積みあげてあった。座禅修行の道場であると強く感じた。境内の二十六体の狸像の前で各自記念写真を撮る。

午後一時頃、栃木市のドライブインで昼食。ご飯粒が干し飯いと化し、コンニャク粉入りの美味のソバも団子状となった。合掌していただくうえに空腹であるから、たちまちに平らげてしまう。これ

だけの人数分をつくるから、「早くから用意せねば間に合わないよ」と、お店の人の苦勞に同情を寄せ、当初の苦言を腹中に飲みこんでおさめてしまった。

三時頃に満願寺山門前に到着。本堂前の石段でバス毎に記念写真を撮った。真言密教と修験の山寺の本堂内は雪洞の灯明で薄明り。仏具の金箔がすすかに光る。三百名余りを収容するほど空間にゆとりがない。互いに詰め合っとうにか座る。祈禱太鼓の伴奏で心経法楽を献読。早いテンポで読した。満願寺の僧侶のお話があった。「私は住職ではない。当山住職の竹村教智師は九十三歳の高齢です。で欠礼を致す。私のような若僧が代行を務めるのは声が大きいので人前でもマイク無しで声を通る。ただ、それだけの理由でこの席に立っている。はりきってお話を申し上げます。(迫力のある大声) 出流山満願寺は真言宗智山派で本尊は千手観音で秘仏である。縁起は今から一二〇〇年前に勝道上人により開創された。上人は日光山の開山でもある。下野の国司の若田氏高の妻が、子室に恵まれなかったので、満願寺の観音に参詣。この奥の院本尊に参籠祈願の結果、靈夢を見て勝道上人が生まれた。観音さまの申し子である。愚痴をこぼし、叱る子育ては凡夫。仏さまの申し子だよと毎日言い聞かせ、やさしく子供に接する。これが仏教徒の子育てであろう。国司夫妻は子授かりの御礼に一堂を建立した。この本堂の向

て左側に勝道上人像を安置。ご本尊さまは十二年に一回のみ午歳の四月から六月の第一、日曜日にご開帳される。来年が開帳の年に当る。

大御堂(本堂)は二三〇年前の建物で五間四面、入母屋造り唐破風、三手先流建築である。向拝軒先の龍の彫刻も見事である。

当寺の冷氣、靈気は信心深い巡礼を感動させるのに充分であると語られる。

午後四時二〇分、出流山満願寺を発進した。大体、夜の七時半〜八時半には帰宅できた。一号車||長昌寺、本覚寺、薬王寺、宗興寺、善竜寺、能満寺。二号車||東照寺、観音寺、三仏寺、円光寺、正観寺。三号車||海照寺、慈音寺、保福寺。寿号車||観護寺、福聚院、福泉寺。五号車||中田寺。六号車||称名寺、金竜院、禅林寺、薬王寺、宇野会長。七号車||宝蔵寺、徳善寺、宗川寺、善昌寺、西福寺。以上、参加寺院と車号を列挙した。関係各位の勸募と参加者全員のご協力に誌上を使い、心より御礼を申し上げます。ありがとうございます。

市仏連役員一同より。

(文責・備前)



横浜市市仏教連合会 平成63年度収支計算書

横浜市市仏教連合会 平成元年度歳入歳出予算書

収支差額 収入金額 2,480,762 門内 1,707,700 門外 773,062 (自 63年 4月 1日 至平成元 年 3月 31日)

歳差額 収入金額 2,825,062 門内 2,825,062 門外 0 (平成元 年 4月 1日 至平成元 年 3月 31日)

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 増減. Rows include ①会費収入, 1. 会費, ②雑部金, ③前年度繰越金, and 収入合計.

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 前年度予算額, 差引増減. Rows include ①会費収入, 1. 会費, ②雑部金, ③前年度繰越金, and 合計.

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 増減. Rows include ①総務費, ②需要費, ③事業費, ④助成金・負担金, ⑤雑支出金, and 合計.

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 前年度予算額, 差引増減. Rows include ①総務費, ②需要費, ③事業費, ④助成金・負担金, ⑤雑支出金, and 合計.

次年度繰越金 773,062 円 平成元年 4月 26日

監査 竹沢隆平 川上敬 平成元年 5月 8日

上記の通り収支決算書を提出致します。 上記の通り歳入歳出の予算案を提出致します。

横浜市仏教連合会 会長 柳下隆平 横浜市仏教連合会 会長 柳下隆平

# 支部だより

## 戸塚区

戦争と平和、廃墟から復興の「昭和」から、安心の「平成」へと祈念する戸塚区仏教会の消息。

二月十八日

雲林寺主北見定賢師の喜寿祝賀会が、リッチ・ホテルにて宗門各師、保護司会、檀信徒関係者出席した盛会であった。

四月二日

蓮久寺主鈴木一静師の本葬儀が如法に従い厳修された。

四月五日

北天院桜井宗優師晋山式。それより先に桜井一溪師の退山式が禅宗如法によって厳修された。

四月八日

慣例の「花祭り」法要が輪番、西立寺に於いて、老若善男女のもと、にぎにぎしく施修された。

五月十九日

雲林寺主北見定賢師は春には喜寿の祝があったのに、ここに本葬儀を宗門如法に従って厳修することになるとは。

六月十六日

平成元年度総会。先きの戸塚・泉・栄三区の分区に伴ない、会則のみ直しと改正。新役員は

会 長 西尾俊雄

副会長 吉水法海 里見嘉嗣

理事 福田俊光 吉水法海

山沢昌雄 近藤光匡

保留一

総務 北見秀明

監事 山沢昌雄 長谷川昌光  
顧問 永原文雄 桜井一溪  
八月十九日  
区制五十周年記念「精霊流し」法要の要請に随喜。

## 金沢区

金沢区仏教会が年間に行う事業の一つに、機関誌「慈光」の発行があります。

これは、金沢区内寺院の檀信徒を対象に教化と広報の使命を担うもので、毎年一月（新年号）と七月（お盆号）の二回発行しております。

内容としては、仏の教えから仏教行事の紹介、区内寺院のできごと、さらには寺院の由来、縁起等の紹介に至るまで幅広く盛っておりますが、特に新年号では、金沢区釈尊奉讃会長宇野忠夫先生に一年頭の挨拶をお願いしております。

そして「慈光」は、この紙面を通して、一般檀信徒に向けて仏の教えの教化をはかり、併せて最近の金沢区仏教会全体の動きと活動状況を把握することによって、僧俗一体の仏教活動がより潤活に展開されることをねらいとしております。

「慈光」の平成元年七月号は、第八二号を数え、この事業も四十年の伝統を持つに至りました。発行部数は、現在四、〇〇〇部ですが、毎年確実に部数が伸びている状況であり、このことは、仏教会と仏教活動の発展につながるものと増々期待をかけています。

「慈光」の編集には、「慈光編集主任」が当たりますが、この主任は、金沢区仏教会役員改選時に選出され、その任期は二年となっております。

平成元年七月号までの編集主任は、伝心寺住職大沢憲明師でありましたが、平成二年新年号からは光伝寺住職安田旭成師にお願いすることになっております。

## 栄区

さかえの歴史「玉泉寺と誠拙和尚」光明寺住職 北條祐勝 記

金井町に、玉泉寺という臨済宗円覚寺派の禅寺があります。今回は、江戸時代後期、この寺に隠居していた著名な禅僧の話です。

誠拙周樗（せいせつしゅうちよ）は、一七四五年、四国の宇和島に生まれます。七歳で出家して各地を修行の後、武蔵国久良岐郡永田の東輝庵（現、南区永田町の宝林寺）に住した高僧・月船禅慧（げっせんぜんね）に師事して高弟となりました。やがて誠拙は、鎌倉の円覚寺からその器量を囑望され修行僧の指導者となります。教えと儀式の復興と寺の修復につとめて円覚寺中興の責を果たし、一八一五年、同寺の住持職に就任するのです。しかし内心は榮達を好まなかつたらしく、早くから隠居を心がけていました。一八〇〇年ころ、七十歳近い誠拙は、金井町・玉泉寺の不願庵忘路亭（ふこあんぼうろてい）という茶室に隠居したと伝えられています。しかし当時の臨済宗の重鎮として、隠居休

息は思わぬまかせません。京都の相国寺や天龍寺などの招きでたびたび上洛し、一八二〇年、七十六歳のとき相国寺で亡くなりました。「玉泉寺史」によると、誠拙の身辺には絶えず金井村民の姿があり、村民は誠拙を「長老様」と呼んでいたといわれています。一八二三年、天龍寺のたつての招きで京都に発とうというとき、村民は、誠拙を「いぶんと引きとめました。困った誠拙は自分の齒と爪を入れた壺を与え、さらに塔の形を書いたものを渡し、「このような塔を建ててそれを俺と思つて拝んでくれ」と言いました。これが、後に村民などが建てた爪牙（そうが）塔です。現在でも、元旦には午前四時ころから輪飾りと洗米を持って参詣する習慣が続いています。

表で栄区仏教会顧問である北條師が書かれた文章を、市仏連会報に転載ください。この転載文を栄区仏だよりに代えさせていただきます。

## 港北区

平素の諸老師方のご法愛を心より感謝申し上げます。さて平成元年四月より港北仏教会長に就任致しました港北区日吉保福寺小住高橋哲英でございます。区仏会長の重責を全うすべく一祈兎命努力をする覚悟であります何卒宜しくご協力下さいます様心よりお願い申し上げます。早速ながら本年の行事予定を申し上げます。花まつり、税務研修、花火大会、灯笼流し、懇親会等、宜しくご協力の程、余談ではありますが私は仏教者として中国、インド、タイ、インドネシア、ネパール、ビルマ、ブータン等仏跡参拝、慰霊の旅をつづけて実施しております。今は亡き戦友諸霊の冥福を祈りつ、命ある限り自分の動ける間、未知の国へ足をふみ入れてみたいとそれを生涯の目標にしております。すぎた日ビルマへの慰霊の旅に戦死者遺族の方も三名参りました。激戦地跡にて慰霊法要を行いました。同行者十六名。

遺族の方々には涙を流し泣いておられました。吾々も涙ながら読経を捧げました。そう言う時には気持ちすがすがしきものです。あゝ来てよかつたな!!と、一度同行しませんか。余談をつづり就任のご挨拶と致します。今后宜しくお願い申し上げます。

栄区版に『本郷郷土史研究会』会

泉 区

この積尊奉讃会に参加させて戴いて、十年余になりました。その間、宇野会長さんを始めとし、多くの先輩方の御指導、御鞭撻をいただき、厚いご庇護のもと、その活動に喜んで参加させて戴いて参りました。もとより市仏教会と積尊奉讃会は、その働きにおいて表裏一体をなすものであり、事業をなすことにより学び、己をたかめ、また同信同行の喜びの輪を広げることであると存じます。

毎年二月の涅槃会が各区、持廻りで行われ、春には一日参拝旅行が、秋には一、二泊の宿泊旅行がされ、特にこの二年間は、比叡山高野山を中心に、関西の大寺院を拝観し、奥深く御本尊前に詣でて読経し、また親しく大僧正より、また責任ある高僧の御法話を頂戴できましたことは、勿論参拝を受入れて下さった御寺院の御厚志であるが、この参拝旅行を計画された方々の並々ならぬ御尽力の結果であり、また夫々同宗派の方々のお力と、更には会員各位の参加ご協力の賜と存じます。

お蔭さまで一般観光旅行では到底不可能な所まで拝観し、おもてなしも受け、ご法話まで頂戴できましたことは誠に有難いことで、奉讃会ならではのことで、存じます。今年には元号も昭和から平成と改まり、積尊奉讃会創立十周年の記念すべき年であります。この年を期して沖繩平和慰霊参拝旅行を計画されたことは誠に意義あることで

あり、仏教徒として特に市仏教連合会として、積尊奉讃会として、なさねばならぬ行事と存じます。このことを大勢の参加者を得て盛大に慰霊法案が施行できますことを願って止みません。これをなして得て積尊奉讃会の十周年を飾り、更に宇野会長を先頭に積尊奉讃会の新たな一歩を踏み出したいと存じます。

港北区仏教会長 高橋哲英師



新役員名簿

平成元年五月八日第十六回総会において左記の通り新役員が承認されましたので、ここにご報告申し上げます。

- 名誉会長 総持寺住職梅田信隆
顧問 金滝院住職志村慎吾
参 与 新善光寺住職福永隆昭
参 与 西有寺住職横山敏明
参 与 福聚寺住職森山正城
顧問 遠藤隆也

事 務 日 誌

Table with columns for position (e.g., 会長, 副会長), name, and date. Includes names like 観音寺住職, 海照寺住職, etc.

編 集 後 記

○お盆、お施餓鬼等の行事も済み、諸大徳におかれては一息安堵の風体で過されているのではなからうか。お互いに、お疲れさまでした。

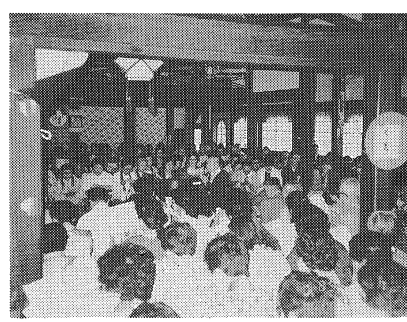
○ご多用の中、原稿を寄せられた市仏、区仏の会長、各位に敬意を表するとともに、厚く御礼を申し上げます。今後とも寄稿協力をお願いする。

○森山正城老師は回復に向けて、精一杯の療養をされている。早く良くなってください。祈念するばかりである。

○会報編集は、スタッフの頭に長昌寺、委員に備前恭忍、加えて旭区上川町の長源寺副住職の新居宝寿の夢三人で、元張って、第二十九号を編集、発行して、

1. 2. 28 三役会開催於観音寺
1. 3. 2 常務理會開催
1. 4. 30 三役会・選考委員会
1. 5. 8 合同会合於横浜西口

た。長昌寺様方へ数度も参上し、寺族の皆様には、お世話になった。
○六月の仏跡参拝には多勢が参加された。今後も市仏、奉讃会の催しに、人数を募って下さい。



- 泉 区 仏 教 会 長 高橋哲英師
副 会 長 観音寺住職
副 会 長 海照寺住職
副 会 長 長昌寺住職
専 務 理 事 松蔭寺住職
会 報 担 当 西福寺住職
監 事 正泉寺住職
鶴見区仏教会長
神奈川区仏教会長
西 区 仏 教 会 長
中 区 仏 教 会 長
南 港 南 区 仏 教 会 長
磯 子 区 仏 教 会 長
金 沢 区 仏 教 会 長
港 北 区 仏 教 会 長
緑 区 仏 教 会 長
戸 塚 区 仏 教 会 長
瀬 谷 区 仏 教 会 長
泉 区 仏 教 会 長
栄 区 仏 教 会 長
63. 8. 28 三役会開催於福聚寺
63. 9. 28 三役会開催於福聚寺
63. 10. 24 会報第27号の発行
63. 10. 24 三会寺へ弔電打電
63. 11. 24 市仏連発の発送
63. 12. 6 理事会・忘年会開催